

平成 27 年度 第 3 回 学校評議員会 概要

平成 28 年 3 月 14 日(木) 10:00~11:40

神戸市立桜の宮小学校 会議室

1. 出席者

平田 勝彦(桜の宮小施設開放委員長)	吉川 庸一(北鈴蘭台自治会長)
相川 光一(ふれまち協議会委員長)	内原 政男(桜の宮連合自治会会長)
吉田ひとみ(桜の宮小学校 P T A 顧問)	田中利恵子(桜の宮小学校 P T A 副会長)
井上 康代(桜の宮小学校 P T A 副会長)	平馬 廣子(桜の宮児童を守る会)
秦 重康(桜の宮中学校校長)	小林 健太(桜の宮小学校教諭)
三海 弘晶(桜の宮小学校校長)	栗本 純也(桜の宮小学校教頭)

【敬称略】

2. 次第

- ・はじめの挨拶 (三海校長)
- ・自己紹介
- ・教育活動等に関するアンケートについて
- ・いじめに関するアンケートについて
- ・質疑応答
- ・卒業式練習参観
- ・地域の子どもの様子について
- ・おわりの挨拶 (三海校長)

3. 教育活動等に関するアンケートについて【資料 1 (学校だより) 参照】

4. いじめに関するアンケートについて【資料 2 (学校だより) 参照】

5. 質疑応答

- ・学校の取組について
 - 先生方は、学習についても友達関係についてもよく見ている。
 - 学校では「人と人との関わり」を学んでほしい。
 - 保護者からのよい評価を得ていて、喜ばしい。
 - 家庭での様子と学校での様子は違うことがある。
 - 保護者としてしっかり子供を見て、学校と連絡を取り、子供と関わりたい。
 - 11 月ごろは一部不安定になって、心配したが、落ち着きを取り戻している。
 - 保護者としては、心配が先に立つが、「待つ」姿勢が子供に「乗り越える力」をつける。
 - 1 クラス当たりの人数が多い学級が気になる。
 - 定数は 40 人。本校で人数が多いクラスは 3,5 年で 37 人。40 人ぎりぎりまではない。
 - スクールサポーター, ボランティア等を活用して対応している。
 - 単学級のデメリットはある。しかしメリットを生かせばいい。
 - 施設については様々だが、その学校の施設に合わせていくことも大切である。

・いじめ防止について

→陰湿ないじめが現実としてある。

子供の貧困が、例えば「臭い」「汚い」につながり、いじめとなる可能性がある。

「ひとりぼっちにしない」と思っている子供の意識を高めてほしい。

3人で遊んでいる子の一人が泣いて帰っている場面を見た。声をかけたが対応が難しかった。

誰もが少しずつ思いやりの心を持つべきだ。

学校だけでなく、色々な立場の人が登場してみんなが取り組むべきことだ。

いじめにつながる行為を90%は認識できているが、これは限りなく100%に近づけるべきだ。

道徳の時間も使って、相手を思いやる心を育てていく。

神戸市ではいじめについて、細かく丁寧な調査をし直している。

・地域の子供の様子について

→信号のない道路を横断していたので、注意したところ、口汚く反抗してくる子供がいた。

地域で子供を育てるといっても、こんなことでは、注意がしにくい。

言葉遣いが悪い子供がいる。素直に謝れる指導をしてほしい。

力づくの指導は難しい。子供に寄り添って納得させながら、指導していく。時間がかかる。

例えば、大人がゴミ出しルールを守れない。ルール、マナーを守る啓発が大人へ必要だ。

自分さえよければいいという大人にならないように、子供たちを導いてほしい。

→ふれあいまちづくり協議会では、高齢者と子供のふれあいの場をもちたい。

年間の計画を学校と連携して立てる。

毎月第3日曜日「カレー喫茶」1食100円（100食）12:00~13:30

高齢者とのふれあいの場として交流を進める。